

ロームシアター京都 2019年度 自主事業ラインアップ

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
2019年2月5日 報道発表資料

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

広報担当：松本、長野

電話：075-771-6051（9：00～17：00）FAX：075-746-3366

E-mail：press@rohmtheatrekyoto.jp <https://rohmtheatrekyoto.jp/>

ロームシアター京都 2019 年度 自主事業ラインアップ

演劇	「母と惑星について、および自転する女たちの記録」……………2
	市民寄席
	日本ポーランド国交樹立 100 周年記念 ヤネック・ツルコフスキ「マルガレーテ」……………3
	能の世界へおこしやすー京都薪能鑑賞のための公開講座ー……………4
	第 70 回京都薪能
	能楽チャリティ公演 ～被災地復興、京都からの祈り～
	村田沙耶香 × 松井周 inseparable 新作公演 「変半身 (かわりみ)」……………5
シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.3 文楽公演……………6	
舞踊	ディミトリス・パパイオアヌー「The Great Tamer」……………7
	全京都洋舞協議会 60 周年記念公演……………8
	レパトリーの創造 ジゼル・ヴィエンヌ「ショールームダミーズ #4」……………9
音楽	新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019「蝶々夫人」……………10
	京都市交響楽団 × 東京バレエ団 クリスマス・スペシャル バレエ「くるみ割り人形」<全幕> ……11
	室内オペラ「サイレンス」……………12
	小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XVIII 京都公演 ROHM CLASSIC SPECIAL……………13
総合	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2019……………14
	ジョン・ジョナス京都賞受賞記念 パフォーマンス「Reanimation」
	ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”……………15
	KYOTO STEAM- 世界文化交流祭 -2020 ダムタイプ 新作公演……………16
	ホリデー・パフォーマンス……………17
	プレイ！シアター in Summer
プレイ！シアター in Summer プレ企画「グレーテルとヘンゼル」……………18	
学び / 参加	劇場の学校プロジェクト……………19
	ロームシアター京都 リサーチプログラム
	機関誌「ASSEMBLY (アセンブリー)」
	「いま」を考えるトークシリーズ
	ロームシアター京都 アセンブリープログラムについて……………20

2019 年度自主事業の企画にあたって

リニューアル・オープンより 4 年目を迎えるロームシアター京都の、2019 年度の自主事業ラインアップを発表します。

京都に「劇場文化をつくる」ことを目指し、自ら企画に取り組んだ多彩な事業を引き続きお届けします。洋の東西を問わず、世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや、次代を担う芸術家の育成にも一層力を入れて取り組みます。また京都のさまざまな施設や団体と連携し、世代やバックグラウンドの違いを越えた人々が参加できる多彩なプログラムを通じて、劇場をハブに多様な出会いを生み出します。

ロームシアター京都の自主事業には、「創造」「育成」「交流」「生活」という4つの構成要素がありますが、これらは各事業を分類するためのタグではありません。一つの事業の中に複数の要素を盛り込むことによって、異なる事業間に有機的つながりを持たせるためのものです。たとえば、「レポートリーの創造」という事業は、その名の通り「創造」が主な目的ですが、「リサーチプログラム」という若手研究者を「育成」する事業の研究対象にもなりますし、アーティストの滞在制作期間中には、京都のアーティストとの「交流」も図られるはずで

また 2019 年度は、奇しくもあるキーワードによっていくつかの公演事業をつなぐことができます。それは“人形”というものです。「レポートリーの創造」で制作するジゼル・ヴィエヌの作品は、生身のダンサーとそれと見紛う精巧な人形が舞台上に登場し、「舞台芸術としての伝統芸能」シリーズ第 3 回目では、日本が世界に誇る芸能・人形浄瑠璃文楽に取り組みます。さらにそこに連なる演目も追ってご紹介することになります。AI（人工知能）がニュースを賑わす現在において、古来より人間の祭礼・芸術などの文化的営為で重要な位置を占めてきた人形を敢えて今キーワードに据えることで、現代社会を俯瞰して見る視点を得られるかもしれません。

もう一つの特徴は、「総合」に分類される事業が増えたことです。ロームシアター京都がご紹介したい作品・プロジェクトは、その質はもちろんのこと、チャレンジ精神も重要な要素です。従来の「演劇」「音楽」「舞踊」などのジャンルでは分類しきれない新しい取り組みは、未分化であったり、複合的であったりするの自然の成り行きです。未だ見ぬものに分け入る冒険のような鑑賞体験へと、皆さんを誘うことになるでしょう。

あくまでこれらは一例ですが、ロームシアター京都の自主事業は、事業の趣旨やテーマを通じて様々なつながりを持つように構成されています。それはこの劇場が施設としてだけでなく、内容としても開かれた場でありたいと考えるからです。内容として開かれているというのは、様々な興味・関心からアクセス可能だということです。そうすることで、皆さんにとって、そして我々劇場のスタッフにとっても思わぬ出会いのきっかけを用意することができるのです。そんな新たな出会いが、新たな対話を生み出していく…。ロームシアター京都で生まれる営みが蓄積となり、さらに人々が引き寄せられ、日常的かつ継続的にロームシアター京都に足を運び、関心を寄せてもらえるようなサイクルを生み出すことを目指しています。

ロームシアター京都

「母と惑星について、 および自転する女たちの記録」

共催

日程：4月13日(土) 13:00 / 18:00 開演
14日(日) 13:00 開演
会場：サウスホール

第20回鶴屋南北戯曲賞受賞作品！

蓬萊竜太の戯曲と栗山民也の演出により立ち上がる、女性4人をめぐる“命”の物語、待望の再演。

2009年「まほろば」で岸田國士戯曲賞を受賞した蓬萊竜太と、日本のみならず韓国など国外でも活動の幅を広げている演出家、栗山民也が2016年に立ち上げ、鶴屋南北戯曲賞を受賞した意欲作、待望の再演決定。テーマは、“命”。普遍的で、それでいてさまざまな色や形をもつ「家族」。

蓬萊が女性4人を中心に描く家族の在り方は、特に母と娘という関係にひそんでいる独特の愛憎を浮かび上がらせ、栗山民也の人間への深い洞察力により、悲しくも愛しい「家族」と「女たち」の「生きる」姿と形を描き出します。京都にゆかりのある田畑智子・キムラ緑子、近年益々実力を高める鈴木杏・芳根京子の豪華4名が母娘4人の愛憎による闘いをどのように繰り広げるのか、壮絶な4人のドラマにどうぞご期待ください。

作：蓬萊竜太

演出：栗山民也

出演：芳根京子、鈴木杏、田畑智子・キムラ緑子

あらすじ

突然の母の死からひと月。私たちは何と決別すればいいのか。

徹底的に放任され、父親を知らずに育った三姉妹は遺骨を持ったまま長崎からあてのない旅に出る。

「私には重石が三つ必要たい」毎日のように聞かされた母の口癖が頭をめぐる。次第に蘇る三姉妹それぞれの母の記憶。

奔放に生き、突然消え去った母。母は、何を欲していたのか。

自分はこれからどこに向かえばいいのか…。三姉妹の自問の旅は続く…。



チケット情報

全席指定 一般 7,800円 [発売中]

企画・製作：株式会社パルコ

主催：朝日放送テレビ / サンライズプロモーション大阪

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

市民寄席

主催

会場：サウスホール

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。

幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。



「第339回市民寄席～三高改メ七代目笑福亭松喬襲名披露公演～」
撮影：佐々木卓男

第345回

日程：5月21日(火) 19:00 開演

チケット情報

全席指定 前売 1,800円 当日 2,000円
ユース(25歳以下) 1,500円(前売・当日とも)
[3月20日(水) 一般発売開始]

[番組]

「桃太郎」笑福亭縁

「酔いどれ交番所」月亭遊方

「宇治の柴舟」桂梅団治

「天神山」桂文也

< 7月以降の公演日程 >

第346回 日程：7月23日(火) 19:00 開演

第347回 日程：9月8日(日) 13:30 開演

第348回 日程：11月26日(火) 19:00 開演

第349回 日程：2020年1月26日(日) 13:30 開演

チケット情報

全席指定
7月、11月回…前売 1,800円 当日 2,000円
ユース 1,500円(前売・当日とも)
9月、1月回…前売 2,300円 当日 2,500円
ユース 1,500円(前売・当日とも)
年間席札 8,000円(完売)

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

日本ポーランド国交樹立100周年記念
ヤネック・ツルコフスキ「マルガレーテ」

主催

日程：5月17日(金)～24日(金)
※5月21日(火)休演
会場：ノースホール

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)
13:00		●	●		休演			
15:00				●				●
17:00		●	●					
19:00	●			●		●	●	●

フィルムに残された映像を手掛かりに、人間の記憶や個人のアイデンティティを問う。演出家自らによって演じられる、限定25名の特別な空間。



©konfrontacje

ポーランドの演出家ヤネック・ツルコフスキの作品を日本初招聘します。ヤネック自身が、単なる好奇心から、東ドイツの国境近くに住む、見ず知らずの人の8mmフィルムを64巻購入したことに端を発する作品。古いフィルムに焼き付けられた撮影者のこだわりのイメージと、共産主義時代のセンチメンタルな風景をみたヤネックは、いつしかこの映像を使って作品を作ろうと思うようになります。人の記憶がどう生成されるのか、また、個人のアイデンティティはどのように形作られるのか。少人数の観客と対峙して行われる、ヤネック自身によって演じられる親密なソロ・パフォーマンスです。



コンセプト・出演：ヤネック・ツルコフスキ
映像：Margarete Ruhbe, Martyna Głowacka, Adam Ptaszyński, Marcin Piątkowski, Janek Turkowski
セットデザイン：Wiesława Turkowska, Martyna Głowacka, Janek Turkowski
音楽：Roger Anklam, Przemek Radar Olszewski
翻訳（英語）：Marcin Piątkowski, Andrzej Wojtasik
プロダクション・マネジメント：Iwona Nowacka

翻訳（日本語）：桑原綾子
日本語吹替：大庭裕介



©Piotr Nykowski

ヤネック・ツルコフスキ Janek Turkowski

演出家、脚本家。シュチェチン（ポーランド）にある劇場 Kana Theatre Centre の企画にも携わる。シュチェチンで開催される Kontrapunkt Festival の芸術委員を10年間務める。時間とナレーションの概念、さらには、ストーリーテリングの起源に関心を持つ。最近では、作品「it's happening in norwich」「Klosterhof」「Smalfilm」をイヴォナ・ノワカと共同で制作している。

チケット情報

全席自由 2,000円 ※各回限定：25席 [3月16日(土) 一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

助成：アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート

協力：ポーランド広報文化センター

能の世界へおこしやす 主催
— 京都薪能鑑賞のための公開講座 —

日程：6月1日（土）・2日（日）各日 14:00 開演
会場：メインホール



京都薪能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開レクチャーを今年も実施します。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の後に、ダイジェスト版の能も鑑賞いただけます。

出演：京都薪能出演能楽師

チケット情報

全席自由 料金：無料 京都薪能チケットを持参の場合は申込不要、当該公演のみ参加の場合は要事前申込（4月12日（金）～5月23日（木）まで、京都いつでもコール（661-3755）にて受付）

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

< 共催事業 >

第70回京都薪能

日程：6月1日（土）・2日（日）各日 18:00 開演
会場：平安神宮（雨天時：メインホール）

6月1日（土）
観世流能「平安」 観世流能「草子洗小町」 大蔵流狂言「福部の神」
金剛流能「石橋 俊猷之式」
6月2日（日）
観世流能「絵馬」 金剛流能「羽衣」 大蔵流狂言「仁王」 観世流能「石橋 大獅子」

チケット情報

全席自由 前売券 4,000円 ほか
[4月13日（土）一般発売開始]

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会
共催：ロームシアター京都
（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能楽チャリティ公演 共催
～被災地復興、京都からの祈り～

日程：8月29日（木）
第1部 10:30 開演 第2部 18:30 開演
会場：サウスホール



平成27年「高砂」

被災地の復興を支援するため、京都在籍の能楽師有志による能楽チャリティ公演を開催します。

【第1部】

半能「高砂」（シテ：河村和晃）
狂言「盆山」（シテ：茂山忠三郎）
能「殺生石」（シテ：大江信行）

【第2部】

半能「賀茂」（シテ：深野貴彦）
狂言「呼声」（シテ：茂山千五郎）
能「善界」（シテ：片山九郎右衛門）

チケット情報

全席自由 1,500円 [6月1日（土）一般発売開始]

主催：京都在籍能楽師有志
共催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、国際交流基金京都支部

村田沙耶香×松井周 inseparable 新作公演 主催 「変半身（かわりみ）」

日程：12月18日（水）14:00 / 19:00 開演
19日（木）18:00 開演
会場：ノースホール

芥川賞作家の村田沙耶香と岸田戯曲賞作家の松井周が運命の共作



画：渡邊鮎彦(カブカブ)

村田沙耶香の代表作『コンビニ人間』は92万部を突破、現在20か国語で翻訳が決定しています。マイノリティーの居心地の悪さと、まもなく訪れそうな未来をユーモアたっぷりに描く村田と、社会的価値観の崩壊をニヒリズムたっぷりに描き、人工知能や先端医療を題材にした演劇や小説を発表してきた松井周が、世界設定とコンセプトを一緒に考え、それぞれの作品を作り上げていきます。ふたりが国内外の取材を経て描く「予想を超える未来」にご期待ください。

原案：村田沙耶香、松井周
脚本・演出：松井周
出演：未定



©Sayo Nagase

村田沙耶香 Sayaka Murata

原案

1979年千葉県生まれ。玉川大学文学部芸術文化学科卒。2003（平成15）年『授乳』で群像新人文学賞（小説部門・優秀作）受賞。2009年『ギンイロノウタ』で野間文芸新人賞、2013年『しろいろの街の、その骨の体温の』で三島賞、2016年『コンビニ人間』で芥川賞受賞。累計発行部数92万部を突破した。著書に『マウス』『星が吸う水』『ハコブネ』『タダイマトビラ』『殺人出産』『消滅世界』などがある。



©平岩 亨

松井周 Shu Matsui

原案・脚本・演出

1972年東京都生まれ。1996年劇団「青年団」に俳優として入団後、作家・演出家としても活動を開始する。2007年『カロリーの消費』より劇団「サンプル」を旗揚げ、青年団から独立。バラバラの自分だけの地図を持って彷徨する人間たちの彷徨を描きながら、現実と虚構、モノとヒト、男性と女性、俳優と観客、などあらゆる関係の境界線を疑い、踏み越え、混ぜ合わせることを試みている。2011年『自慢の息子』で第55回岸田戯曲賞を受賞。2016年『離陸』で2016 Kuandu Arts Festival（台湾）に、2018年『自慢の息子』でフェスティバル・ドートンヌ・パリ（仏）に参加した。

チケット情報

全席自由 一般3,500円 ユース（25歳以下）2,000円 18歳以下1,000円 [9月21日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

企画製作：有限会社 quinada

共同製作：三重県文化会館（公益財団法人三重県文化振興事業団）、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、神戸文化ホール（公益財団法人神戸市民文化振興財団）

I シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.3 文楽公演 主催日程：2020年2月29日(土)
会場：サウスホール

伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ第三弾は、文楽！

2017年度から始まった伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」。3年目となる2019年度は“文楽”をテーマに、木ノ下歌舞伎主宰・木ノ下裕一をスーパーバイザーに招き、新たな取り組みを行います。今もともと華のある人形遣いの一人、三世桐竹勘十郎を筆頭に、日本の伝統芸能の至宝である技芸員たちによる上演が繰り広げられます。上演後には、技芸員と専門家によるディスカッションも実施します。

出演：桐竹勘十郎 ほか
スーパーバイザー：木ノ下裕一



桐竹勘十郎 Kanjuro Kiritake

1953年大阪生まれ。父は人間国宝の人形遣い、二世桐竹勘十郎、姉は俳優、三林京子。1967年文楽協会人形部研究生となる。人間国宝の三世吉田簀助に師事。翌年、大阪毎日ホールで初舞台。父から学んだ立ち役、名女方の師匠から学んだ女方、男女の人形を遣いこなす。2003年、三世桐竹勘十郎を襲名。公演のほか、ワークショップや大阪府能勢町の「能勢人形浄瑠璃鹿角座」の指導、新作公演など活動は多彩。「絵本太功記」「夏祭浪花鑑」で2008年芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章、「文楽人形遣いとして高度な技をもった活躍及び文楽界における貢献」で、平成21年度(第66回)日本芸術院賞、平成30年第38回伝統文化ポラ賞 優秀賞など受賞多数。



©東直子

木ノ下裕一 Yuichi Kinoshita

木ノ下歌舞伎主宰

1985年和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。2015年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞 2015年上半期作品賞にノミネート。また、2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。公益財団法人セゾン文化財団ジュニア・フェロー。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

チケット情報

調整中 [10月発売予定]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

企画製作：ロームシアター京都

制作協力：木ノ下歌舞伎 / 一般社団法人樹来舎

特別協賛：公益財団法人稲盛財団

ディミトリス・パパイオアヌー 「The Great Tamer」

主催

日程：7月5日(金) 19:00 開演
6日(土) 15:00 開演
会場：サウスホール

ギリシャ発、肉体が奏でる幻想の旅

*20ヶ国 28都市で上演された注目のステージが初来日！



photographs by Julian Mommert

アテネオリンピック（2004年）の開閉会式の演出、ピナ・バウシュ亡き後のヴッパタール舞踊団から初のゲスト振付家に指名されるなど、世界中から熱い視線が注がれる演出／振付家ディミトリス・パパイオアヌーの日本初公演。ギリシャ彫刻や古典絵画の要素に、現代アートを接続するスタイリッシュなビジュアル・舞台装置がスケールの大きな世界観を提示します。本作品は“世俗にある神聖なものに光を当てる”というコンセプトのもと、冒険や探検、考古学的発掘のように人類の起源へと遡る旅をします。10名のパフォーマーの身体は物質的でもありながら、相互作用し、溶け合い、不条理なサーカスのようでもあり、演劇的で幻想的な時間を紡ぎだします。様々な表現と溢れ出るアイデアでダンスという枠にとどまらない本作品は、世界中の劇場・フェスティバルで称賛を浴び、世界最新系の舞台作品として満を持しての来日となります。

*2019年2月5日現在

ビジュアル・演出：ディミトリス・パパイオアヌー



photographs by Julian Mommert

ディミトリス・パパイオアヌー Dimitris Papaioannou

演出／振付家

1964年アテネ生まれ。美術家として活動を始め、舞台芸術のアーティスト（演出家・振付家・美術家・パフォーマー）として知られるようになる前には、画家や漫画製作家として国際的に認められていた。NYでダンスを学び、86年に自身のカンパニーを設立。以後フィジカル・シアター、実験的ダンス、パフォーマンス・アートを融合した独自の舞台創作を展開。2004年アテネオリンピックの開閉会式を演出し、世界的に注目を集める。2015～17年には『PRIMAL MATTER』（12年初演）、『STILL LIFE』（14年初演）で大規模な世界ツアーを行い、2018年5月にはヴッパタール舞踊団の委嘱により同カンパニーに『Since She』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。

チケット情報

全席指定 一般 6,000円 ユース（25歳以下）4,000円 [3月16日(土) 一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
共同招聘：彩の国さいたま芸術劇場（公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団）

I 全京都洋舞協議会 60 周年記念公演 共催日程：11月4日(月・祝)
会場：メインホール

「カルミナ・ブラーナ」は日本屈指の振付家である故石井潤氏の代表作の1つで、運命の力に翻弄されながらも生を謳歌する人々の姿が豊かに描き出され、力強く壮大な群舞が見どころです。

可愛さ、美しさ、民族色溢れるレオ・ドリーブの音楽による「 Coppélia」は小さなバレリーナからプリマバレリーナまで、魅力がいっぱいに詰まった舞台となり、「精霊たちの森」はシェイクスピア原作の「真夏の夜の夢」をベースにしたダンスシーン満載の新作。まさに子供から大人まで楽しめる大きな舞踊公演です。

上演作品

「精霊たちの森」 演出・振付：石原完二
「Coppélia」第3幕 振付：有馬えり子・井上佳子・末松大輔・原美香
「カルミナ・ブラーナ」 振付：石井潤
振付指導：寺田みさこ・石井千春

実行委員：有馬えり子・石原完二・井上佳子・神谷道子・末松大輔・世古口瑛喜・原美香・福本浩美

チケット情報

調整中

主催：全京都洋舞協議会

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

レパートリーの創造 ジゼル・ヴィエンヌ 主催
「ショールームダミーズ #4」日程：2020年2月8日(土)・9日(日) 全2ステージ
会場：サウスホール

世界中の観客を魅了する俊才、ジゼル・ヴィエンヌと創造する、次代へ繋ぐレパートリー。



Show: Showroomdummies (creation 2001)
Design: (c) Etienne Bideau-Rey & (c) DACM / Gisele Vienne
Artist: Anne Mousselet
Photograph: (c) Alain Monot

時代を超えて未永く上演される劇場のレパートリー演目を製作することを念頭に、2017年から継続して取り組むプロジェクト。今年度からは、世界中の観客を魅了し続けるフランスの俊才、ジゼル・ヴィエンヌを迎え、レパートリー作品を2年間にわたって製作します。

初年度は、マゾッホの『毛皮を着たヴィーナス』をモチーフに、2001年の初演から現在に至るまで、再演を繰り返しながら変化を続けるジゼル・ヴィエンヌの出世作『ショールームダミーズ』を上演します。本作でヴィエンヌは、エティエンヌ・ビドー＝レイと共に演出・振付・舞台美術を担当。1人のシンガーと、オーディションで選出される5人のダンサーによる、あらたな舞台が立ち現れます。

演出・振付・舞台美術：ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ

出演：公募によるオーディションによって決定(2019年2月5日現在募集中。詳細はロームシアター京都WEBサイト参照。)

音楽：ピーター・レーバーク

照明：パトリック・リウー

レパートリーの創造について

ロームシアター京都が、2017年度から取り組んでいるプログラムで、公立劇場が主体的に作品製作に取り組み、劇場のレパートリー演目として時代を超えて未永く上演されることを念頭にプロデュースします。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトゥルク、制作者等の専門家人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、レパートリーの創造から各地域における劇場文化をつくることを目指します。



Photograph: (c) Patrick Chiha

ジゼル・ヴィエンヌ Gisèle Vienne

1976年生まれ。哲学を学んだ後、フランス国立高等人形劇芸術学校に在学。振付家、演出家、パフォーマー、美術家として活躍。小説家のデニス・クーパーとのコラボレーションのほか、写真やインスタレーション作品も積極的に発表している。2018年には、KYOTO EXPERIMENTで鮮烈な印象を与えた『CROWD』で、フランスの批評家協会賞の最優秀賞を受賞。



エティエンヌ・ビドー＝レイ Etienne Bideau-Rey

1975年生まれ。ベルギーのサン＝リュック美術学院、リエージュ王立美術アカデミー、フランスの国立高等人形劇芸術学院で学ぶ。振付家・演出家の活動の他に、ドローイングや彫刻も制作。2000年にマルセル・ブルスティン・ブランシェ職業財団賞を受賞。最初の舞台作品をジゼル・ヴィエンヌと共に手掛ける。

チケット情報

調整中 [9月発売予定]

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019 主催
「蝶々夫人」

 日程：10月28日(月) 13:00 開演
 30日(水) 13:00 開演
 会場：メインホール

 2017年公演より
 撮影：寺司正彦

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は高校生を対象に開催しています。2019年の公演では、2017年にも上演し、好評を博した、ブッチーニ作曲のオペラ『蝶々夫人』を、城谷正博指揮、日本を代表する一流の歌手陣、京都市交響楽団の演奏でお贈りします。栗山民也の演出は、死をもって愛を貫いた蝶々さんの世界をシンプルながらスケールの大きな舞台で描いています。人物の内面を鮮やかに描写する演出が、高校生の想像力を刺激し、オペラへの興味を喚起します。

演目：G. ブッチーニ 歌劇「蝶々夫人」全2幕（イタリア語上演／日本語字幕付）

指揮：城谷正博
 演出：栗山民也

合唱：新国立劇場合唱団
 管弦楽：京都市交響楽団

蝶々夫人：小林厚子 ピンカートン：小原啓楼
 シャープレス：青山貴 スズキ：山下牧子
 ゴロー：内山信吾 ボンゾ：島村武男 ヤマドリ：吉川健一 ほか

チケット情報

全席指定（税別） 高校生のみ 2,000 円
 当日料金 高校生以下 2,000 円 一般 4,000 円
 ※高校生対象の公演のため、残席がある場合のみ、一般に当日券を販売します

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場
 協賛：ローム株式会社
 助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

京都市交響楽団×東京バレエ団 クリスマス・スペシャル バレエ「くるみ割り人形」＜全幕＞

主催

日程：12月22日（日）14:00 開演
会場：メインホール

日本を代表するバレエ団・東京バレエ団と京響の夢のコラボレーションが実現！



チャイコフスキー作曲のバレエ「くるみ割り人形」は、世界中で幅広い世代に愛され、クリスマスの夜を舞台に、夢の世界を描いたファンタジー・ストーリーとして、非常に人気の高い名作です。今回は、京都市交響楽団の生演奏とともに、世界的にそのパフォーマンスレベルを評される東京バレエ団（正式名称：チャイコフスキー記念東京バレエ団）のバレエの美しさとあわせて、華やかで楽しい舞台の魅力をお届けします。



©Kiyonori Hasegawa

指揮：井田勝大

管弦楽：京都市交響楽団

出演：東京バレエ団

振付：マリウス・プティパに基づく

音楽：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

東京バレエ団 The Tokyo Ballet

1964年に創設。創立以来一貫して、古典全幕作品から現代振付家の名作まで幅広いレパートリーを誇っており、なかでも現代バレエ界を代表する三大振付家——ベジャール、キリアン、ノイマイヤーがバレエ団のために振付けた作品は大きな成功を収めている。これまでに、33次764回の海外公演を行っており、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場などヨーロッパの名だたる歌劇場に数多く出演し“日本の生んだ世界のバレエ団”として国内外で高く評価されている。

チケット情報

調整中 [8月発売予定]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

室内オペラ

主催

「サイレンス」〈日本初演〉
(フランス語上演・字幕付)日程：2020年1月18日(土) 18:00 開演
会場：サウスホール

“ノーベル賞受賞・生誕 120 周年” 川端康成 ×
“ゴールデングローブ賞・アカデミー賞受賞” アレクサンドル・デスプラ
ジャンルレスでボーダレスな新作オペラ！



2019年に生誕120年を迎える小説家・川端康成の短編小説『無言(サイレンス)』にインスピレーションを受け、グラミー賞やゴールデングローブ賞で作曲賞を多数受賞している注目の映画音楽作曲家・アレクサンドル・デスプラが新たに発表する室内オペラ。2019年2月にルクセンブルクで世界初演、パリ(フランス)での初演などを経て、2020年1月に日本初演を迎えます。

ルクセンブルクを拠点に活躍する現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ルシリン」の演奏に加え、VALENTINOのクリエイティブディレクターが衣装を手がけるなど、これまでにないスペシャルなコラボレーションが実現。粋にとらわれない新しいオペラを体験してください。

原作：川端康成「無言」

音楽：アレクサンドル・デスプラ

台本：アレクサンドル・デスプラ / ソルレイ

演出：ソルレイ / シャルル・シュマン

衣装：ピエールパオロ・ピッチョーリ (VALENTINO)

演奏：アンサンブル・ルシリン

指揮：エマニュエル・オリヴィエ

ソプラノ：カミーユ・ブル

バリトン：ミハイル・ティモシェンコ

語り：サヴァ・ロロフ



アレクサンドル・デスプラ Alexandre Despla

グラミー賞、ゴールデングローブ賞で音楽賞を多数受賞している注目作曲家が室内オペラを新たに発表する。2005年、『真夜中のピアニスト』でベルリン国際映画祭銀熊賞とセザール賞を受賞した。また、2006年の『クイーン』でアカデミー賞にもノミネートされた。2008年の『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』や2010年の『英国王のスピーチ』でもノミネートされている。2014年の『グランド・ブダペスト・ホテル』でアカデミー賞を初受賞。最新作『The Shape of Water (2018年3月1日日本公開)』はゴールデングローブ賞最優秀作曲賞、アカデミー賞作曲賞を受賞。その後も多数のノミネート、受賞が続いている。



アンサンブル・ルシリン United Instruments of LUCILIN

ルクセンブルクを拠点に活躍する現代音楽アンサンブル。20世紀/21世紀の音楽の振興と創作に力を入れている。弦楽四重奏、ピアノ、打楽器メンバーを核にし、プロジェクトの規模に応じて管楽器や他の楽器が加わる。作曲家、学者、演奏家が創造に参加し、共に現代のさまざまな音楽分野の発展を目指している。2014年10月に来日し、細川俊夫作曲「大鴉—メゾソプラノと12の奏者のためのモノドラマ」日本初演(コンサート版)。広島にて演奏会と共にCD録音をし、NAXOSよりリリース、「レコード芸術」特選盤。子ども向け「チュール君と影」日本ツアー/細川俊夫「大鴉」再演/フィリップ・マヌリ「Kein Licht」世界初演&再演に演奏団体として参加/バスカル・デュサパン 子ども向け「Momo」ルクセンブルク初演など、コンサートだけではなく、子ども劇場や舞台作品など活発に活動を展開している。

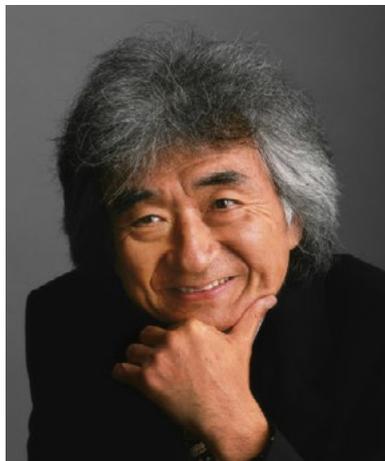
チケット情報

調整中

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVIII 京都公演 主催 ROHM CLASSIC SPECIAL

日程：2020年3月
会場：メインホール



©Shintaro Shiratori

世界的な指揮者である小澤征爾が、自らの音楽経験を後進の若手音楽家に伝えることを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトによるオペラ公演です。日本、中国、台湾、韓国でのオーディションで選ばれる若手音楽家たちで結成するオーケストラと、一流の出演者・制作陣によって、高水準のオペラを制作します。また、一般向けの公演だけでなく、京都府内の小学生を対象にした、「子どものためのオペラ」公演も開催します。

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン、京都市、
ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
企画・制作：ヴェローザ・ジャパン
共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
協賛：ローム株式会社

チケット情報

調整中

【小澤征爾音楽塾 これまでの公演】

- 2000年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅠ モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」全4幕
- 2001年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅡ モーツァルト：歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」全2幕
- 2002年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅢ モーツァルト：歌劇「ドン・ジョヴァンニ」全2幕
- 2003年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅣ J.シュトラウスⅡ世：喜歌劇「こうもり」全3幕
- 2004年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅤ プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」全4幕
- 2005年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅥ ロッシーニ：歌劇「セビリヤの理髪師」全2幕
- 2006年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅦ グスタフ・マーラー交響曲第2番「復活」
- 2007年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅧ ビゼー：歌劇「カルメン」全4幕
- 2008年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅨ J.シュトラウスⅡ世：喜歌劇「こうもり」全3幕
- 2009年 小澤征爾音楽塾オーケストラ・プロジェクトⅠ
- 2009年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅩ フンパーディンク：歌劇「ヘンゼルとグレーテル」全3幕
- 2011年 小澤征爾音楽塾 中国公演
- 2012年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅪ プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」全2幕
- 2013年 小澤征爾音楽塾 オーケストラ・プロジェクトⅡ
- 2014年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅫ モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」全4幕
- 2015年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅩⅢ ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」
- 2016年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅩⅣ J.シュトラウスⅡ世：喜歌劇「こうもり」全3幕
- 2017年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅩⅤ ビゼー：歌劇「カルメン」
- 2018年 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅩⅥ プッチーニ：歌劇「ジャンニ・スキッキ」／ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」
- 2019年（3月15日、17日開催）小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅩⅦ ビゼー：歌劇「カルメン」

※ 2015年より2019年にかけて「子どものためのオペラ」も開催。2016年より制作拠点：ロームシアター京都。

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2019

主催

日程：10月5日（土）～27日（日）[23日間]
会場：サウスホール、ノースホール、パークプラザ、京都芸術センター、
京都芸術劇場 春秋座、Theatre E9 Kyoto ほか

KYOTO EXPERIMENT 2019

京都国際舞台芸術祭

Kyoto International Performing Arts Festival



2010年より、毎年秋に京都市内の劇場を中心に、世界各地の先鋭的な舞台芸術を紹介してきた京都発の国際舞台芸術祭の第10回目。

国内外からアーティストを迎え、演劇やダンスだけでなく、美術や音楽など従来のジャンルを越境し、いま注目すべき多様な表現が京都に集まります。

「創造するフェスティバル」として、アーティストと共に作品を製作し、世界初演を含む作品を積極的に紹介。「創造」と「交流」の実験の場として、国際的な舞台芸術のプラットフォームとなることを目指します。

アーティスト第一弾発表は2019年4月予定！ <https://kyoto-ex.jp>

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、
京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター]

ジョーン・ジョナス 京都賞受賞記念 パフォーマンス「Reanimation」

共催

日程：12月12日（木）19:00 開演
会場：サウスホール

現代美術の最先端を走り続けるジョーン・ジョナス、近年の代表的パフォーマンス。



パフォーマンスとニューメディアを融合させた新しい芸術表現の先駆者であり、50年にわたり現代美術の最先端を走り続ける美術家、ジョーン・ジョナス。2018年に第34回京都賞思想・芸術部門を受賞した記念公演であり、国内最大規模のパフォーマンス公演です。今作は、ピアニストのジェイソン・モランと2012年に初演したコラボレーション作品となります。

Joan Jonas, Reanimation, 2012, performance at Hangar Bicocca, Milan, Italy, Light Time Tales, 2014.
Photo by Moira Ricci



Joan Jonas in New York, 2012.
Photo by Brigitte Lacombe

ジョーン・ジョナス Joan Jonas

1936年ニューヨーク生まれ、同市在住。1970年代初頭にパフォーマンスとビデオを融合させた新しい表現形式を創始。この領域における先駆者の一人であり、現在もパフォーマンスと新しいデジタルメディアとの関係を探求し続けるアクティブな芸術家として、高い評価と尊敬を集めている。

世界各地の美術館での個展・パフォーマンスのほか、ドクメンタなどの国際展、企画展に多数出品している。第56回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2015)にアメリカ館代表として参加。2018年3月から8月にかけて、ロンドンのテート・モダンで大規模な回顧展が開催された。

チケット情報

調整中

主催：公益財団法人稲盛財団

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

企画・制作：ロームシアター京都

企画協力：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

ジョーン・ジョナス京都賞受賞記念 展覧会

日程：2019年12月14日（土）～2020年2月2日（日）

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

お問い合わせ：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

TEL.075-253-1509

ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”

主催

日程：① 12月（日時調整中）
② 2020年2月（日時調整中）
会場：ノースホール

参加団体：①お寿司
②オル太

次代を担う若手アーティストが京都から羽ばたく！新たな創造支援プログラムの2年目。

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創造支援プログラム“KIPPU”。2年目となる今回、2019年度の参加団体募集を行い、選考を実施。衣装作家が立ち上げた舞台芸術団体「お寿司」（京都）と、巨大な彫刻やインスタレーション、集団による身体表現などを展開するアーティスト・コレクティブ「オル太」（東京）の2組に決定いたしました。各団体のフレッシュな感覚によって、ノースホールにどのような空間が立ち上がるのか、ご期待ください。

※詳細は決まり次第、ロームシアター京都、京都芸術センター、各団体の公式WEBサイトなどで告知いたします。



お寿司『病気』(2016年)©松本成弘

お寿司（京都）OSUSHI

京都を拠点に活動する舞台芸術団体。衣装作家、南野詩恵が2016年に立ち上げる。作・演出・衣装を一つの頭から繰り出し、演者に対して、生地と文字という外面・内面両方からアプローチを試みる。アートやファッションに特化した演劇作品を生み出している。



オル太『スタンドプレー vol.1』(2018年)©井上佐由紀

オル太（東京）OLTA

井上徹、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chiの6名からなる表現集団。2009年に結成し、日常の身振りから伝承されていく形式的な作法を取り入れ、土地に根付く集合的な記憶や人間の根源的な欲求に迫るインスタレーションやパフォーマンスを展開する。第14回岡本太郎賞受賞。

チケット情報

調整中

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市
※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催：参加団体、共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市で開催します。

KYOTO STEAM- 世界文化交流祭 -2020 主催
ダムタイプ 新作公演日程：2020年3月 日時調整中
会場：サウスホール世界がその動向を注目し続ける伝説のマルチメディア・パフォーマンス・グループ **ダムタイプ**、
2002年以來 18年ぶりの待望の新作発表！

『Voyage』(2002年) (C) KazuoFukunaga

ダムタイプは、映像、絵画、建築、デザイン、コンピューター・プログラムなど異なる背景をもつメンバーによるアーティスト集団です。1984年の結成以来、プロジェクトごとにリーダー的な人物、表現方法を変化させながらマルチメディアを使ったパフォーマンスやインスタレーションを中心に発表し、国内外で活動しています。今回は、2002年発表『Voyage』以来となる新作を上演します。

**ダムタイプ Dumb Type**

1984年に結成。ヴィジュアル・アート、映像、コンピューター・プログラム、音楽、ダンスなど、様々な分野の複数のアーティストによって構成される。京都を活動の拠点とし、プロジェクト毎に参加メンバーが変化して制作される作品は、既成のジャンルにとらわれない、あらゆる表現の形態を横断するマルチメディア・アートとして国内外で発表されている。2018年1～5月にはポンピドー・センター・メッス（フランス）で個展「DUMB TYPE: ACTIONS + REFLEXIONS」が開催された。今年11月からは東京都現代美術館での個展が予定されている。

チケット情報

調整中

制作：ダムタイプ、ロームシアター京都

企画製作：ロームシアター京都

主催：KYOTO STEAM - 世界文化交流祭 - 実行委員会

参画団体：京都市、京都市立芸術大学、京都市美術館、京都市動物園、(公財)京都市芸術文化協会、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団、(公財)京都高度技術研究所、京都商工会議所、京都経済同友会、日本放送協会京都放送局、京都新聞社、京都岡崎萬屋書店

<ワークインプログレス開催>

KYOTO STEAM- 世界文化交流祭 -prologue**ダムタイプ 新作ワークインプログレス 2019**

2020年発表の新作に向け、制作のプロセスを一部公開します。

日程：2019年3月24日(日) 15:00 開演

会場：サウスホール

チケット情報

全席自由 1,000円 [2月10日(日) 一般発売開始]

制作：ダムタイプ、ロームシアター京都

企画製作：ロームシアター京都

主催：KYOTO STEAM- 世界文化交流祭 - 実行委員会

参画団体：京都市、京都市立芸術大学、京都市美術館、京都市動物園、(公財)京都市芸術文化協会、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団、(公財)京都高度技術研究所、京都商工会議所、京都経済同友会、日本放送協会京都放送局、京都新聞社、京都岡崎萬屋書店

「ホリデー・パフォーマンス」 主催

日程：通年（全4回）
会場：3階共通ロビー（予定）

音楽を中心としたパフォーマンスを無料でお楽しみいただける、新たなシリーズがスタートします。
ジャンルにとらわれない多彩な音楽を紹介します。

Vol.1

7月14日（日）

出演：アンサンブル九条山

Vol.2

8月31日（土）

出演：瓜生山オーバートーン・アンサンブル

※詳細は、決まり次第、ロームシアター京都 WEB サイトでご案内します

チケット情報

無料、予約不要

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

「プレイ！シアター in Summer」 主催

日程：8月17日（土）、18日（日）
会場：全館

今年も開催！家族や友達と楽しめる、ロームシアター京都の恒例夏休み特別企画



劇場で体験する上演形式のインスタレーション、こども向けワークショップ、こどもディスコ、劇場ツアーなど、“気軽に遊べる劇場”として、こどもから大人まで満喫できるもりだくさんの2日間。

ご家族、お友達を誘ってロームシアター京都におこしください！

- ・視聴覚メディアによる上演型インスタレーション（新作）／山城大督
 - ・COOL! こどもディスコ／康本雅子 ほか
 - ・お絵かき／トナカイサインズ
- ほか



山城大督 Daisuke Yamashiro

美術家・映像作家。1983年大阪府生まれ。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない《時間》を作品として展開する。2006年よりアートコレクティブ「Nadegata Instant Party（中崎透＋山城大督＋野田智子）」を結成し、市民参加型プロジェクトを全国各地の美術館、芸術祭で発表。また、山口情報芸術センター[YCAM]にてエディタールとして、オリジナルワークショップの開発・実施や、教育普及プログラムを多数プロデュース（2006-2009年）。インスタレーション作品《VIDERE DECK / イデア・デッキ》で第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品受賞。主な展覧会に森美術館「六本木クロッシング 2016 展：僕の身体、あなたの声」。子どもと共創するプロジェクト「子どもと大人と社会の現場《NENNE | ねんね》」を2018年より始動。



康本雅子 Masako Yasumoto

ダンサー・振付家。これまでに自作品を国内外津々浦々にて公演。ダンス公演のみならず、演劇、音楽、映像、ファッション界等、多岐に渡るジャンルにおいて活動する。12年の単独公演「絶交わる子、ポンッ」を期に福岡へ、15年からは京都へ移住。地元の企業や小中学校へのWSなど、地域に根差した活動も行う。

チケット情報

無料、予約不要（一部有料あり）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

「プレイ！シアター in Summer プレ企画 「グレーテルとヘンゼル」

主催

日程：8月14日（水）15:00 開演
15日（木）15:00 開演
会場：ノースホール

みんながよく知っているグリム童話『ヘンゼルとグレーテル』とは、ちょっと違う？！
姉と弟のおはなし。

グリム童話で有名な兄と妹の話「ヘンゼルとグレーテル」とは、ちょっと違う「グレーテルとヘンゼル」は、「なぜ、このお話のタイトルは『ヘンゼルとグレーテル』で、『グレーテルとヘンゼル』ではないの？！」と怒る姉と、「ぼくも！ぼくも！」と喋りばかりの弟のおはなしです。演出は世界各地で子ども向けに上演を続けている、カナダ・ケベック州の劇団ル・カールセルの演出家、ジェルヴェ・ゴドロ、出演は、活躍めざましい土居志央梨と小日向星一でお贈りします。

脚本：スザンヌ・ルポー 演出：ジェルヴェ・ゴドロ
出演：土居志央梨、小日向星一



撮影：岡千里

劇団ル・カールセル

1975年に、スザンヌ・ルポーとジェルヴェ・ゴドロによって設立。40年以上にわたり、カナダを拠点に世界各地で子供向けの作品の上演を行っている。海外ツアー・国際演劇祭参加は多数で、これまでの公演回数は約4,500回、観客動員数は約1,000,000人にもほり、レパートリーの作品は、24カ国語に翻訳され、世界中で上演されている。



ジェルヴェ・ゴドロ Gervais Gaudreault

スザンヌ・ルポーと共にル・カールセルを設立、芸術監督を務める。それ以降、ル・カールセルのほとんどの作品はゴドロが演出しており、『L'Ogrelet』や『Petit Pierre』（カナダ舞台技術協会テクニカル・メリット賞受賞）、『Le bruit des os qui craquent』（ケベック演劇評論家協会クリティクス・アワード児童演劇部門受賞）もその一つである。2011年には名門メキシコ国立劇団の俳優を使って、スペイン語で『Le bruit des os qui craquent』を演出。現在までに、約30の作品を演出しており、ル・カールセル以外の劇団の演出も手がける。現在は、児童・青少年向け演劇の国際的研究・制作センター、ザ・キューブの発展に力を注いでいる。



土居志央梨 Shiori Doi（グレーテル役）

1992年生まれ。福岡県出身。2015年、京都造形芸術大学を卒業。在学中から数々の映画、舞台に出演。2013年「彌勒」（林海象監督）で映画デビュー。近年の映画出演には、2018年「リバース・エッジ」（行定勲監督）、「祈りの幕が下りる時」（福澤克雄監督）、舞台は2017年 木ノ下歌舞伎「東海道四谷怪談」（演出：杉原邦生）、2019年 ROOMシアター京都レパートリーの創造 木ノ下歌舞伎「糸井版摂州合邦辻」が控えている。2019年3月オンエア予定 NHKBS「我が家のヒミツ」に出演するなど、テレビや映画など様々なジャンルで活躍中。



小日向星一 Seiichi Kohinata（ヘンゼル役）

1995年生まれ。東京都出身。明治大学政治経済学部を卒業。2015年より本格的に俳優として活動。舞台出演作には、2015年に「平成舞姫」（第27班キャビネット公演Vol2）、「薔薇戦争」で主役のヘンリー六世を演じる（第十二回明治大学シェイクスピアプロジェクト）、「JASMINE- 神様からのおくりもの-」（劇場 HOPE）、2018年「パパ、アイ・ラブ・ユー」（三越劇場）、2019年「イーハトーボの劇列車」（新宿紀伊屋ホール）など。第一回ピクシブ文芸大賞「Q&A」でドラマデビューし、テレビ、映画、CM多方面に出演。

チケット情報

全席自由 おとな：2,500円 こども（18才以下）：1,000円 おとな+こどもペア：3,000円 [発売日調整中]

主催：ROOMシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
企画・製作：KAAT 神奈川芸術劇場

I 劇場の学校プロジェクト 主催

日程：7月～12月予定

将来、日本の舞台芸術界を担う専門的な人材育成事業を開始します。2019年度は、プレ事業として、演劇、舞踊、メディア・パフォーマンスの3種類の講座を設け、国内外の第一線で活躍しているアーティストを講師として招聘するほか、次年度以降の本格実施に向け、芸術教育の現状と未来を考察する研究会を開催。対象は13歳～18歳の若年層とし、各講座20名程度を募集します。

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

I ロームシアター京都 リサーチプログラム

日程：6月（予定）～2020年3月

プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、2017年度よりリサーチプログラムを実施しています。リサーチテーマは、「子どもと舞台芸術」「現代における伝統芸能」のほか、今年度からあらたに「舞台芸術のアーカイブ」を予定しています。

リサーチ募集期間（予定）：2019年4月～5月30日

メンター：吉岡洋（京都大学こころの未来研究センター特定教授）、若林朋子（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授、プロジェクト・コーディネーター）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

I 「いま」を考えるトークシリーズ

日程：通年（全4回予定）
会場：3階共通ロビー（予定）

多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手がかりを探り、ともに考えるトークシリーズです。

※詳細は、決まり次第、劇場WEBサイトでお知らせします



チケット情報

参加費無料、申込優先（先着順）

※当日お席がある場合は申込無しでもご参加いただけます

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

I 機関誌「ASSEMBLY（アセンブリー）」

年2号発行予定

ロームシアター京都自主事業として2017年度より実施しているプログラム「リサーチプログラム」、「いまを考えるトークシリーズ」と連携する機関誌です。「リサーチプログラム」に参加するリサーチャーによる寄稿などを掲載しています。2018年度にVOL.02、VOL.03を発行し、2019年度はVOL.04、VOL.05を発行予定です。

VOL.01（2018年3月発行・既刊） [PDFはこちら](#)VOL.02（2018年12月発行・既刊）[特集] 集まりの現在 [PDFはこちら](#)

VOL.03（2019年3月発行予定）[特集] 子どもと舞台芸術（仮）

ロームシアター京都 アセンブリープログラムについて

ロームシアター京都では、市民に憩いの場を提供し、新しい“京都会館”＝ロームシアター京都を象徴するプログラムのひとつとして、日常的に「アセンブリープログラム」を開催しています。“アセンブリー”という名称には、京都会館の英語表記「Kyoto Assembly Center」にある、「集会」や「会議」という開館時に込められた思いを引き継ぎつつ、幅広い教養や知識を気軽に得られる大学等の課外授業のイメージを込めています。



アセンブリープログラムは、「ほんものとの出会い」を作り出す京都岡崎蔦屋書店（カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社）と連携し、賑わいを生み出すために行うさまざまなイベントの総称です。ロームシアター京都が目指す劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるマルシェや読書会などのプログラム、一般参加型のワークショップなどのプログラム、ロームシアター京都自主事業と連動したプログラム、地域施設・団体と連携したプログラムを展開しています。

【過去開催したアセンブリープログラムの一例】

- ・マルシェ（岡崎おかない市、岡崎いんどりマルシェ、京の手づくりマルシェ ほか）
 - ・ワークショップ（ストール染め、抹茶を知って楽しむワークショップ、手作りうちわ ワークショップ ほか）
 - ・トークイベント
 - ・読書会
 - ・DJ イベント
- ほか